

## 制約の中、大分支部総会を敢行

令和 2 年 7 月 4 日（土）、大分支部総会を大分センチュリーホテルで 11 名の参加を得て開催しました。



本年度は本部の評議員会・全国支部長会議と日程を合わせて、総会後の懇親会で合流し、2年後に迎える100週の機運を盛り上げることにしていました。ところが新型コロナ感染防止のため、評議員会が集会をせず書面審査に代えることになり、大分支部総会だけ独自に開催することになったものです。大分支部の規定では、総会は必ず開催しなければなりません。

コロナ下で敢えて開催するため質素な総会を意図しました。個人会費会員と職域企業幹事にお送りした案内状で、参加者は感染予防に十分配慮して出欠を考慮するように呼びかけ、また、例年招待している本部役員や職域支部長、近隣支部長等への案内も出ませんでした。懇親会をしない異例の総会です。

総会の議案書は6月1日の支部理事会において決定していました。21名が出席した理事会も、コロナ対策で会場が直前に変更を余儀なくされるなど、理事の皆さんに御不便をおかけしました。

総会に先立って佐々木信之監事から少人数の総会になった経緯を説明しました。総会では最初に、佐藤辰夫副支部長の進行で、

この1年に亡くなった16名の物故者に対する黙とうを行いました。

議事は高井道晴支部長が議長を務め、佐々木監事の会計報告を経て、議案書の通り、前年度事業報告、決算、令和2年度事業計画、予算が承認されました。これらの内容は大分支部のページに掲載します。今回実現できなかった総会后懇親会の本部評議員会・全国支部長会議との合同開催について、改めて来年度実現を目指すことも承認されました。

職域企業の状況、特別会計予算の残高等について質疑がありました。懇親会でいつも行っている新人社会人の紹介は大切な行事だから本部との合同開催時にもプログラムに組み込めないかとの意見もありました。



勇断を持って総会にご参加いただいた会員の皆様、ありがとうございました。